

タイからの里親奨学生 トール君 就活奮闘記

企業の国際競争力を高める人材として理系留学生の採用意欲が上がってきています。

海外が主要マーケットになりつつあり、海外での営業力・国際競争力を高めたいと考えており技術営業の要員として理系留学生を採用している【製造業】

こんな企業の声が聞こえる2015年の就活戦線。
実際、理系留学生はどのように日本企業の採用システムに挑戦しているのでしょうか。

当社の奨学生トール君。悲喜交々な就活戦線レポート 第2弾

海外展開を検討する企業数社へエントリー。
まずはエントリーシートの日本語での記述。
辞書を引き引き書き上げました。
鉛筆じゃダメなんですか？
ボールペン書き間違えました。
修正ペンは×だよ。
えっ！
何度も書き直し・・・心を込めて書き上げました。

10日後、説明会参加の連絡が来ました。
ヨシ！初の東京！
慌てて飛行機予約して、アクセス確認して、スーツ着て・・・

面接・グループワーク・SPI試験・・・さてさて



専門は**機械設計**。CAD
を使って**ギア**や**ジャッキ**
のモデル設計にも取り
組みました。

面接は笑顔でクリア。
グループワークは個性の強い日本人学生に圧倒されたとか。
「自己主張しすぎるとオカシイと思いました」と。
どちらが日本人？な控えめな発言に思わず(笑)

こと戸惑ってしまったのはSPI。
日本人でも文章・問題数量多いですね。

アジアの国には無い日本の一括採用システム。
彼らには関所の多いプログラムのようです。

就活は回数重ねて経験積んでいくうちに縁のある企業との出逢いがあるもの。

くじけるなトール君。
母国タイと日本をつなぐ仕事
君の活躍を欲している職場には必ず出逢える。

(つづく)

本人直筆
エントリー
シートの下
書。
何度も書き
直しました。

日本に留学しようと思ったきっかけ（理由）は何ですか？
また、日本の大学で学んだことを教えてください。

日本に留学するきっかけはタイで日本企業 エンソーンで働いており、日本人の勤勉さと親切さを肌で感じるから聞かせてもらっていたからです。また、インヅニア（機械）勉強だと日本においては最良だと思っていましたからです。

日本に学んだこと、機械専門のこと（機械設計、熱力学、材料力学など）
また、日本語の勉強も必死に取り組んでいました。